

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

生徒が生きて働く「知識」を習得する美術科学習

— 2 領域を往還しながら実感を伴った「知識」の習得を促すことができるような手立ての工夫を通して—

### (2) 主題設定の趣旨

中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）では、枠組みの改善点の一つとして「何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）」が取り上げられ、新中学校学習指導要領解説総則編において、「資質・能力の育成は、生徒が『何を理解しているか、何ができるか』に関わる知識及び技能の質や量に支えられて」<sup>(1)</sup>いると明記されています。また、新中学校学習指導要領解説美術編では、「知識とは、単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではなく、生徒一人一人が表現及び鑑賞の活動の学習過程を通して、個別の感じ方や考え方等に応じながら活用し身に付けたり、実感を伴いながら理解を深めたりし、新たな学習過程を経験することを通して再構築されていくもの」<sup>(2)</sup>と示されています。

美術科では、現行学習指導要領で、「A 表現」及び「B 鑑賞」の 2 領域、項目、指導事項の全てに共通して働く資質・能力として〔共通事項〕が新設されました。新学習指導要領で、育成する資質・能力が三つの柱に沿って整理されたことに伴い、この〔共通事項〕が、造形的な視点を豊かにするために必要な「知識」として位置付けられました。〔共通事項〕は、「ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること」、「イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること」の 2 つの事項で構成されています。

これまで美術科では、「知識」としての指導事項や内容が示されておらず、評価の観点にも「知識」の文言がなかったことから、「知識」の指導と評価の実情が見えにくいという課題や、取り扱いが曖昧だという懸念がありました。新たな指針が示されたことで「知識」が明確に位置付けられたと言えます。〔共通事項〕の内容からも分かるように、この「知識」は、美術に関する用語や表現技法などが単に暗記されるようなものではなく、表現及び鑑賞の活動の中で実感を伴いながら習得されていくものです。美術に関する用語などを知ること「知識」の習得と捉えられますが、そのことが造形的な見方・考え方を働かせるための一助となったり、最終的に美術と主体的に関わる姿勢につながったりしなければ、本当の意味での習得とは言えません。

そこで本研究では、2 領域を往還しながら生きて働く「知識」を習得する流れの中で、鑑賞の活動から表現の活動に生かす部分までに焦点を当て、その有効性を検証します。具体的には、導入の鑑賞の活動で生徒に〔共通事項〕を基にした視点をもたせ、それらの視点から造形的な要素や表現の特徴などに気付かせるようにします。次に、アイデアスケッチで使用するワークシートにも〔共通事項〕の内容を整理した項目を示し、〔共通事項〕の視点から加筆し表現したいイメージを具体化させ、そのアイデアスケッチを基に立体での表現を行わせるようにします。

このような手立てを設定することで、2 領域の活動を往還し、造形的な視点を豊かにするために必要な「知識」を習得できると考えます。

これらのことにより、美術科における「知識」を捉え直し、生きて働くものとして習得させることができるような指導を継続していくことが、美術科の目標である「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」につながる重要な要素になると考え、本主題を設定しました。

**(3) 研究の目標**

美術科において、生きて働く「知識」を習得させるために、2 領域の活動を往還しながら「知識」を生かすことができるような効果的な指導方法について探る。

**(4) 研究の仮説**

中学校美術科の授業で、鑑賞の段階や、主題を生み出し発想や構想を練るアイデアスケッチの段階において、使用するワークシートに〔共通事項〕の内容を整理した項目を示し、生徒に〔共通事項〕の視点から表現したいイメージを具体化させる手立てを設定すれば、生徒は、アイデアスケッチを基にした立体的な表現を行う中で、実感を伴いながら「知識」を習得することができるだろう。

**(5) 研究方法**

- ア 生きて働く「知識」についての理論研究
- イ 「知識」の習得の程度を見取るための質問紙調査や表現内容の分析
- ウ 作品の造形的な特徴から得る「知識」を表現の活動に生かす手立てを取り入れた授業実践

**(6) 研究内容**

- ア 文献調査を通し、生きて働く「知識」の捉え方を整理するとともに、生きて働く「知識」を習得させるための効果的な指導方法を探る。
- イ 「知識」の習得の程度を把握するために質問紙調査を実施し、「知識」が習得され生かされたかを把握するために、ワークシートの記述や表現の変容などを分析する。
- ウ 鑑賞の活動で造形的な特徴から得る「知識」を、表現の活動に生かすことができるような手立てを取り入れ、その有効性を検証する。

## 《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説総則編』 平成 29 年 7 月 p. 36
- (2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編』 平成 29 年 7 月 p. 13

## 《参考文献》

- ・中央教育審議会 『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成 28 年 12 月